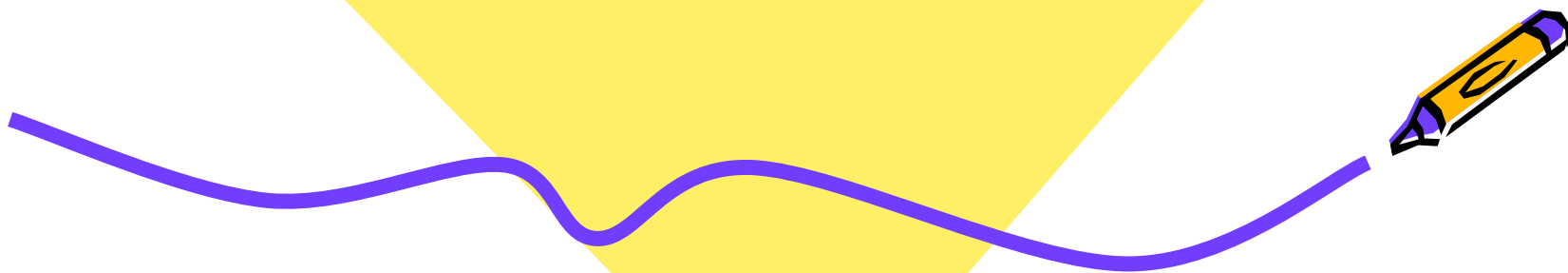




D I G実施の手引き

一般編



長野市消防局

DIGとは？

- **DIG**(ディグ)とは、
災害(**Disaster**)のD
想像力(**Imagination**)のI
ゲーム(**Game**)のG

の頭文字を取って名づけられた、誰でも
行うことができる、気軽に簡単にできる災
害図上訓練の名前です。



DIGの特徴



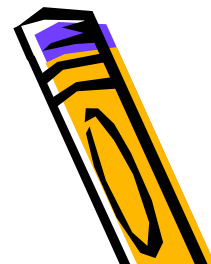
1 災害を知る

「どこで、どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」

地図に書込みをすることで、具体的に自分の暮らす地域で起こりえる災害をイメージできます。



DIGの特徴



2 まちを知る

「まちの構造はどうなっているのか」

「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」

「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるか」

地図に具体的な要素を加えていくことで、自分達の地域の特徴を改めて確認することができます。

3 ひとを知る

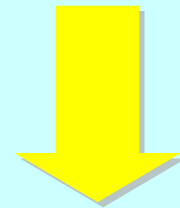
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」

「近所に手助けが必要な人はいないか」

人の情報は、地域にとって非常に重要な情報になります。さらに、参加者全員で防災について話合うこと自体も、地域の防災ネットワークの基盤強化につながります。

何をするのか？

地元の地図を広げ、防災上の安全な場所や危険な場所はどこか、参加者全員で気軽に話し合いながら地図に書込み、知識を共有します。そして、その結果から地域の特徴を把握し、課題を明確にします。



災害に強い地域を育てる！

例えば・・・

「災害があった時に危険な場所や、注意しなければならない場所はどこにあるのか？」



塀の倒壊、自動販売機の転倒など・・・

DIGの流れ

事前準備

グループ分け・
役割の決定



時間配分・
記入項目の決定



地図・小道具類
の準備

DIG当日

実施方法の
説明 10分



地図作成
シート1 15～30分
シート2 15～30分



課題検討
10分



成果発表
10分から15分



事前準備

1 実施対象の決定

- 地区住民
- 実施人数は何人でも可能

2 対象人数

- 1グループ8から10人に班分け
- 全体の進行役、各グループのリーダーと書記を決定

3 時間配分・記入項目の決定

- 60分から90分程度の時間が必要
- 実施予定時間によって記入項目を決定

事前準備

4 地図・小道具類の準備

【地図】 住宅地図や都市計画図などの拡大コピーを利用

【透明シート2枚】 地図の上に敷き、書込みを行うもの

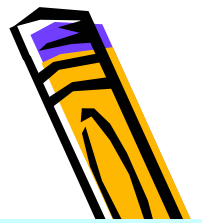
【油性ペン】 地図に書込みをするためのもの

【付箋(ふせん)】 意見を書き出すときに使用

【模造紙】 意見を整理し、発表の時に使用（省略可）

- 上記の準備品は各グループごとに必要になる。
- 1枚の地図につき透明シートは2枚用意し、セロテープ等を使用して事前に貼り合わせておく。

DIG当日



1 会場設営

- グループごとに準備品（必要であればテーブル）を用意

2 事前説明

- 訓練前に、災害が発生したときの被害のイメージをもってもらおう。

- ・ 災害時の写真等で、ビジュアルによる説明を付け加える。（省略可）
- ・ 記入項目の施設、場所は、なぜ安全か？危険か？を説明
- ・ 「危険な場所」の対象は防災面であることを認識してもらう。



事前説明の災害写真例



地震時の塀の倒壊



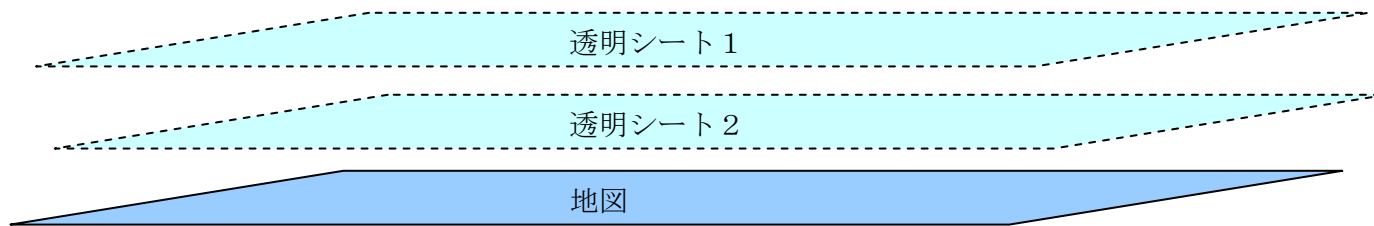
道路の寸断



河川の増水



地図の作成



シート1

- 「まちの構造」「防災上の安全な場所」を記入

シート2

- 「防災上の危険な場所」を記入(シート1はめくる。)

- 危険な箇所は赤一色にした方がシート1の色と区別しやすい。

どのくらいの数があり、どの位置にあるかを確認してもらうことがポイント



シート1








まちの構造の確認

種別	色・線種		種別	色・線種	
主要道路		茶太線	河川・池等		青太線
耐火建築物		紫太線	鉄道		黒太線
公園・学校等の避難所になる施設・場所		緑太線			

防災上安全な施設・人

種別	色・線種		種別	色・線種	
医療機関		黒	公共施設(市役所、消防署、警察等)		黒
ガソリンスタンド		黒	消防器具置場 防災倉庫		黒
ホームセンター等		黒	AED設置場所	AED	黒
食料品店 コンビニ		黒	区長、自主防災会長等の自宅		緑

防災上危険な場所

種別	色・線種		種別	色・線種	
河川の氾濫危険箇所		赤で網掛け	ブロック塀の多い狭い道路		青太線
土砂災害の恐れがある場所		赤で網掛け	老朽化した木造住宅の密集地		赤で網掛け
危険物の貯蔵庫 (ガソリンスタンド等)		緑太線	災害時使用できなくなる道路・橋		赤で網掛け
その他危険と思う箇所 (自販機の転倒等)		緑太線	災害時助けが必要となる人、施設 (※)		赤

(※) 人 : 一人暮らしの高齢者、身体障害者、妊産婦、外国人等
 施設 : 老人福祉施設、障害者福祉施設、幼稚園、保育園

【注意】 個人情報が含まれるので、記入項目に入れる際は、関係者とよく相談し、
 取扱いには注意すること。

課題検討

- 地図にシート1、シート2を重ね合わせる。
- 以下のポイントを参考にして、付箋に記入していく。

検討する上でのポイント

- ① 地域の特徴
 - ・ 地震発生後、危険になる場所はどこか？
 - ・ 安全な避難場所はどこにあるか？
 - ・ 大きな河川、池、幹線道路、重要な施設などはどこにあるか？
- ② 予想される被害や危険な箇所

成果発表

- 1グループ3、4分程度の発表

発表項目

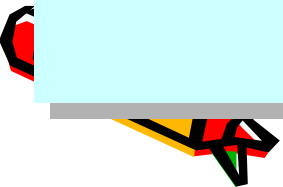
- ① 予想される被害や危険な場所
- ② 予想される安全な場所
- ③ 被害を軽減させるための備え 等



D I Gを実施する上での留意点



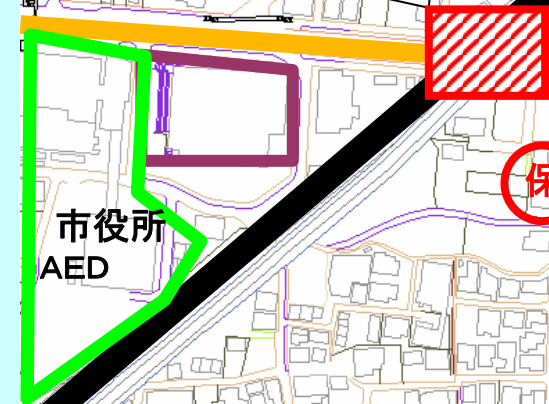
- 気軽にゲーム感覚でやってもらうことが目的なので、意見や発表内容の評価はしない。
- 訓練中の参加者からの質問は必要最小限とし、参加者自身で考えてもらうことを念頭にいれる。
- 参加者の自主性、議論を最優先に考え、状況に応じて予定時間の変更をする。



地図の作成例

浸水または線路の倒壊により
使用できなくなる危険

木造住宅密集地



食

河川の氾濫危険

危

消防署
AED

保



公民館

自動販売機の倒壊危険

ブロック塀が多い狭い道路

幼

食

+

- ・書き込みを実施したシート1とシート2を合わせた状態の地図
- ・色、マークについては実施手順とほぼ同じ



建物の窓ガラスが
落ちてくる危険

